

震災対策技術展(福岡会場)出展レポート

IAA Alliance 事務局

1. 日時：2006年3月22日(水) 10:00-17:00
2006年3月23日(木) 10:00-16:30

2. 参加者：

NICT 海老名、伊藤

みずほ情報総研 能瀬、竹下

サン・マイクロシステムズ 佐藤

NTT コミュニケーションズ(連携実験担当) 千原、伊藤

3. 場所：

福岡国際センター

4. ブース展示の報告

独立行政法人情報通信研究機構は第1回震災対策技術展 九州にブースを出展し、IAA Alliance は展示の支援を行った。ブースでは、IAA システムの説明ビデオ上映のほか、PDA の静態展示、IAA システムのデモなどを展示した。IAA システムのデモにあたり、インターネット回線はADSL回線を確保した。来場者にはパンフレット類、ノベルティ等を配布するとともに、IAA システムの説明をした。ブースに立ち寄られた方の比率は、一般企業の方、防災ボランティア団体の方、一般の方が多かった。

また、開催期間中に自治体関係者を対象として、IAA システムとNTT コミュニケーションズで開発された地図表示システムとを使った連携実験を実施した。連携実験の内容は、IAA システムで被災者の検索をしてもらった後、リンク先の地図サーバで被災者のいる避難所の状況を調べてもらう、というものであった。4名の参加者が検索を行い、ほとんどの参加者が無事に情報を参照することができたが、マウスの操作やキーフォーカスの移動のしかたにとまどう参加者もいた。連携実験に対する意見としては好意的なものが多かったが、被災地情報の更新時間がわかりにくいなど、改善箇所も明らかになった。

総来場者数は2日間で1398名であった。総来場者のうち、IAA Alliance のブースに立ち寄ってくださった方は、2日間で計約500名であった。

下記のような質疑応答があった。

Q：災害伝言ダイヤルとの違いは？

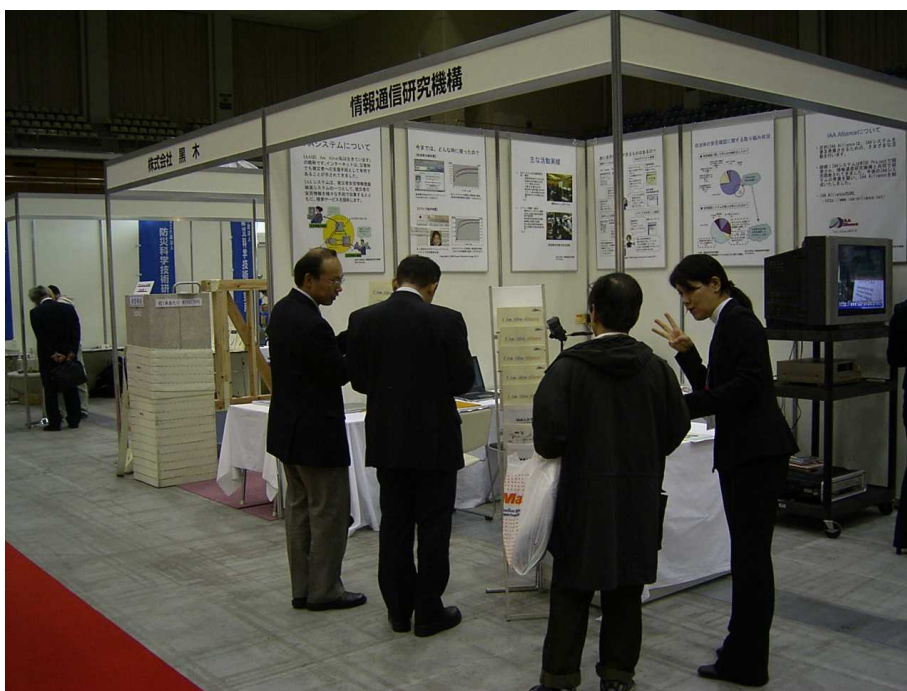
A：IAA システムはインターネットベースの安否確認で、災害伝言ダイヤルは留守番電話サービス。

Q：PDA はどんな機種でも使えるのか？

A：Linux ベースで赤外線通信機能のあるものであれば利用できると思う。

Q：今までに導入した自治体は？

A：今広報活動中なので、これから。



ブースの風景



実験風景

5 . 講演会の報告

2006年3月23日(木)11:00 -11:45 に展示会場内の講演会場Aにて IAA システムの講演会を行った。講演会は、前半が「IAA システムについて」という題で海老名が IAA システムの説明および実績について講演を行った。その後、佐藤が「地域住民向け安否確認サービスの提案」という題で ASP 事業モデルについて講演を行った。最後に質疑応答を行った。質疑応答は下記のようなものであった。

Q : どれくらいの人が安否確認できたのか数字を教えてください。

A : IAA システムでは個々の検索結果を記録していない。



講演会風景

6.2 その他の広報・普及活動等

6.2.1 広報媒体や WEB での紹介

(1)自治体の広報媒体や WEB での紹介

以下の自治体の広報媒体や WEB で IAA システムや IAA Alliance の紹介・リンクがされている。

- ・ 千葉市広報誌 2005 年 9 月 1 日号（防災特集）
- ・ 奈良県 WEB
<http://www.pref.nara.jp/bosai/index.html>
- ・ 新潟県小千谷市 WEB
<http://www.city.ojiya.niigata.jp/soumu/sou04.html>

(2)ポータルサイトでの紹介

- ・ Yahoo 災害情報
<http://rescue.yahoo.co.jp/>
- ・ Web Japan（外務省 IT 広報室運営の日本の情報を海外に紹介する英文ウェブサイト）
<http://web-japan.org/links/life/life/emergency.html>

(3)放送番組での紹介

- ・ エフエム世田谷「なにしろパソコン（毎週日曜 16:10 -16:20）」2006 年 3 月 12 日

(4)雑誌での紹介

- ・ IA ジャパンレビュー 3 月号（財団法人インターネット協会）
「スマトラ沖地震および新潟中越地震における被災者情報登録検索『IAA システム』の役割」という題で原稿を執筆した。

6.2.2 会員向けメールニュースの発行

2005 年度は 6 回にわたって会員向けメールニュースを発行し、会員への活動情報の共有を図った。

以 上